

第2節 資源循環 資源を大切に作る社会システムの形成

[1] 環境の状況

近年の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会は、私たちの生活を物質的に豊かにした反面、限りある資源を大量に消費し、それをゴミとして廃棄することで、環境に大きな負荷を与え、様々な問題を生じさせています。

私たち一人ひとりの生活のあり方や、事業活動を見直すことにより、廃棄物の発生を抑制（リデュース）し、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）を推進する「循環型社会」を構築する必要があります。

本市は吹田市第3次環境基本計画において、市民1人当たりの1日のごみ排出量とリサイクル率に目標を設定しています。

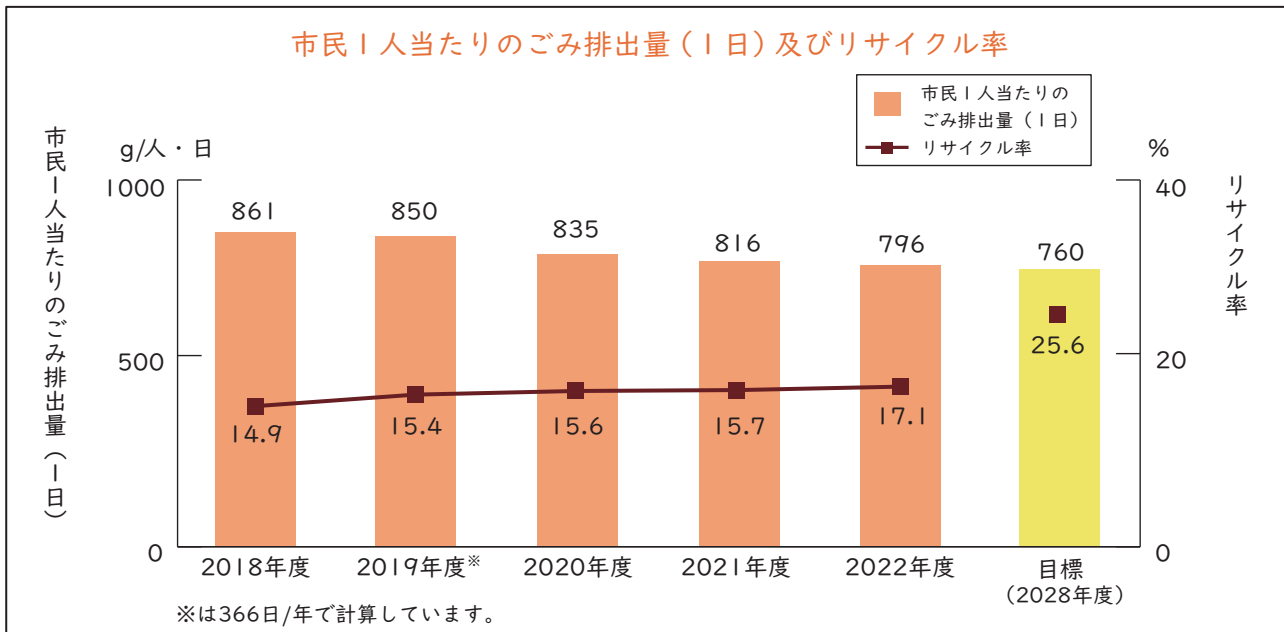
(1) ごみの排出状況

燃焼ゴミや資源ゴミなどを含む1年間に排出される全てのごみの量（ごみの年間排出量）は、2022年度（令和4年度）は110,745t（家庭系ゴミと事業系ゴミの合計）でした。市民1人当たりになおすと、1日に796gでした。

(2) ごみのリサイクル状況

市が資源ゴミとして収集する缶やびん、拠点回収によるペットボトル、集団回収による新聞紙やダンボールなど、リサイクルした量のごみ全体に占める割合（リサイクル率）は、2022年度（令和4年度）は17.1%でした。

代表指標の進捗状況



指標の進捗状況

指標	2020年度	2021年度	2022年度	目標値 2028年度
年間の燃焼ゴミ搬入量（破碎後可燃物を含む）	98,981t	97,761t	96,498t	84,390t
ごみの年間排出量	家庭系ごみ	82,657t	80,832t	76,995t
	事業系ごみ	31,800t	31,960t	27,646t
マイバッグ持参率	83.0%	82.1%	82.4%	87% ^{※1}

※1 吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画策定に伴い、目標値を80%から87%に引き上げたことを踏まえ、目標値を同値に見直しました。

[2] 施策

■ 吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画

本市は、2022年（令和4年）2月にごみの減量や適正処理の基本方向・基本施策を定めた「吹田

市第3次一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。

期 間／ 2022年度（令和4年度）～2028年度（令和10年度）

基本理念／ 「MOTTAINAI」（もったいない）を基本理念として定め、市民・事業者・行政の三者協働により、循環型社会・低炭素社会の構築を目指す。

重点施策／

- 1 2Rを優先したごみの減量
- 2 分別によるリサイクルの促進
- 3 食品ロス削減の推進
- 4 プラスチックごみ削減の推進
- 5 三者協働（市民・事業者・行政）の推進

基本施策／

- 1 ごみの発生抑制を優先する社会への転換
- 2 多くの市民が参加しやすいリサイクルシステムの構築
- 3 排出者責任の確立と事業系ごみの減量促進
- 4 持続可能な低炭素社会実現に寄与する収集体制や処理システムの構築

計画の目標／

- ・市民1人1日当たりのごみ排出量を、2028年度（令和10年度）までに760gにする。
- ・リサイクル率を、2028年度（令和10年度）までに25.6%にする。

■ 発生抑制を優先する社会への転換

（1）家庭系廃食用油の回収

家庭での使用済み天ぷら油（廃食用油）を回収し、リサイクルしています。回収した油は、別の製品の原材料として再生されます。

現在、市内14か所の公共施設で拠点回収を行っ

ています。2022年度（令和4年度）は、7tの廃食用油を回収しました。



（2）吹田市ごみ減量再資源化推進会議

市民・事業者・行政が三者協働で、食品ロス削減をメインテーマとしたごみ減量再資源化の取組を進めています。2022年度（令和4年度）は、新型コ

ロナウイルス感染症拡大防止の観点から、第1回は対面、第2回は対面とオンラインにより、会議を開催しました。

（3）プラスチックごみ削減の取組

①使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収

市の公共施設等で、使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収しています。

2022年度（令和4年度）は、回収量約148kg（回収相当数約148千個）、CO₂削減量は410kg-CO₂でした。



②マイボトル用給水機の設置

2021年（令和3年）5月よりマイボトル用給水機を設置しており、32施設・2公園に35台設置しています。

2022年度（令和4年度）にはNATS及びウォータースタンド株式会社で連携し、阪急電鉄の4駅（西宮北口駅・園田駅・岡町駅・北千里駅）にマイボトル用給水機を設置する実証実験を実施しました。その結果、2023年（令和5年）4月より順次、4駅にマイボトル用給水機が本格設置されました。



(4) 食品ロス削減の取組

①フードドライブ

家庭等で余っている食品を市に提供していただき、子供食堂や福祉団体等の必要としている方にお渡しする取組です。2022年度(令和4年度)は2回実施しています。

1回目では提供人数119人、提供品数674個、提供重量207kg、2回目では提供人数60人、提供品数603個、提供重量262kgでした。



吹田市フードドライブキャラクター
風土 虎息吹(ふうど どれいぶ)

(5) 不要品のリユース

2023年(令和5年)6月30日に株式会社マーケットエンプライズと協定を締結し、リユース活動の促進に向けて連携を図ることとしました。家庭で不要になったがま

②てまえどりキャンペーン

てまえどりは、買ってすぐ食べる場合に、コンビニ、スーパー等の棚の手前にある商品や、賞味期限・消費期限の迫った商品を積極的に選ぶ行動のことです。

2023年(令和5年)1月及び10月にてまえどりキャンペーンを実施し、コンビニ、スーパー等で、ポップやポスターなどを掲示して、てまえどりを呼びかけました。

だ使えるものは、リユースプラットフォーム「おいくら」を通じて売却し、必要としている方に譲ることができます。



■ 多くの市民が参加できるリサイクルシステムの構築

(1) 廃棄物減量等推進員制度

廃棄物減量等推進員制度は、1995年(平成7年)11月に発足し、34地区の連合自治会からの推薦により推進員を委嘱しています。推進員は、地域でごみの減量や

分別についての推進役として活躍しています。2023年(令和5年)3月31日時点で292人の推進員が活動しています。

(2) 再生資源集団回収の推進

本市は、自治会や子供会などの集団回収を推進しています。2022年度(令和4年度)は、444団体が実施

し、6,130tの再生資源を回収しました。集団回収は、本市のリサイクル率向上におおいに役立っています。

(3) 資源リサイクルセンターでの活動

市民のリサイクル活動を推進する拠点施設として、全国に先駆けて1992年(平成4年)に開設しました。このセンターは、市民活動・環境学習の場であるだけ

でなく、市民研究員による研究活動のための場でもあります。施設の運営に関しては、指定管理者である公益財団法人千里リサイクルプラザに委託しています。

(4) すいたエコイベント宣言

すいたエコイベント宣言とは、イベント主催者がごみの減量など環境に配慮した取組を宣言し、イベント参加者に対

して環境意識の向上を図る取組です。2022年度(令和4年度)は、3事業でエコイベントが宣言されました。

■ 排出者責任の確立と事業系ごみの減量促進

毎月2t以上の一般廃棄物を排出する事業者(多量排出占有者)に対して、事業系一般廃棄物の減量計画を定め、廃棄物管理責任者を選任することを指導しています。さらに、事業活動に伴うごみの処理やリサイクルの責任は排出者である事業者の責任であ

ることを浸透させるとともに、搬入検査の強化、紙ごみ等の資源化をはじめ搬出管理指導の強化などを図っています。2022年度(令和4年度)は、200事業者に対して減量計画書の提出を求めました。

■ 産業廃棄物

産業廃棄物については、年間1,000t以上もしくは、特別管理産業廃棄物を年間50t以上排出する事業者(多量排出事業者)は減量等の処理を計画し実施状況を報告することが義務付けられています。2022年度(令和4年度)は、それらの事業場に対し延べ23件立入検査を実施し、産業廃棄物の減量

やリサイクルの促進等についても指導しています。

また、排出者責任を明確にし、産業廃棄物の適正処理を確保していくための産業廃棄物管理票交付制度に係る報告については、2022年度(令和4年度)実績で1,907件を受理しています。

家庭生活・事業活動

吹田市
人口 381,238人
世帯数 182,636世帯
(2023年3月末日現在)

ごみ排出量 104,614 t

集団回収 6,130 t

	燃焼ごみ	56,982t
	資源ごみ	7,538t
	大型複雑ごみ	4,025t
家庭系	小型複雑ごみ	2,063t
ごみ	有害危険ごみ	277t
	ペットボトル	222t
	廃食用油	7t
	臨時ごみほか	935t
事業系	燃焼ごみ	32,507t
ごみ	その他資源ごみ*	58t

※ エネルギーセンターにおいて、分別回収したもの

ごみ収集



ごみ収集車

資源循環エネルギーセンター
(ごみ焼却・発電施設)
99,697 t*



破砕選別工場
15,225 t



※ 破砕選別工場から搬入された可燃物を含む

ごみ発電

5,229 万kWh

うち電力会社への逆送電
2,334 万kWh

最終処分場

(大阪沖埋立処分場)

5,793 t

再資源化 18,979 t

(再資源化率 17.14%)

破砕選別による
再資源化 8,214t

ごみ焼却後の
溶融スラグ・灰中鉄分
溶融メタル 4,635t
傾動メタル
山元還元灰

集団回収 6,130t